

## 教職員の日常の言動チェックリスト

※体罰や暴言は、新学期が始まって学校生活が本格的に動き出す時期や、部活動の大会、学校行事（体育祭や文化祭）などがある時期に発生しやすい傾向があります。そのことも踏まえ、このリストで自らの言動を人権の視点からチェックしてみてください。

（○実践できた。 △これからは意識したい。）

具 体 的 な 言 動 (例)		5月	9月	2月
1	一人になりがちな児童生徒には積極的に声をかけている。			
2	児童生徒によって名前の呼び方が変わらないようにしている。			
3	視力や聴力、身長などに配慮した座席配置にしている。			
4	安易に多数決で物事を決定せず、少数意見を大切にしている。			
5	学級の係や清掃などは、役割を公平に分担している。			
6	的外れな答えでも失笑したりバカにしたりしない雰囲気づくりをしている。			
7	ふざけ合いやあだ名などで、児童生徒の嫌がる様子を見過ごさない。			
8	落書きや掲示物のいたずらなどの異常がないか、教室をチェックしている。			
9	児童生徒の前で保護者や家族を非難するような言動をとらない。			
10	提出物などを忘れた児童生徒の名前を黒板に書き出さない。			
11	部活動や校内大会で、勝つことだけを目標にしていない。			
12	保護者や児童生徒に批判されても冷静に対応している。			
13	先入観や憶測のみで児童生徒を頭ごなしに叱らず、必ず理由を尋ねている。			
14	暴力を容認する言動をとらない。			
15	同僚の児童生徒に対する不適切な言動に対しては、注意を促している。			
16	児童生徒の容姿や体型等について、不適切な発言をしていない。 （不適切な例）「太っている割に足が速いね。」「小さいのに頑張っているね。」等			
17	児童生徒の家庭環境や兄弟関係等について、本人をおとしめる発言をしていない。 （不適切な例）「親は立派なのになあ。」「お姉ちゃんは優秀だったけど。」等			
18	児童生徒の能力や特性を否定する発言をしていない。 （不適切な例）「本当に不器用だなあ。」「なんでそんなに鈍感なの。」等			
19	児童生徒の努力を無視した発言をしていない。 （不適切な例）「あなたには無理。」「君が〇位だなんて、まぐれだろ。」等			
20	児童生徒の相談や訴えを一方向的に退けるような発言をしていない。 （不適切な例）「君だけに関わってられない。」「他にも仕事があるの。」等			

【参考】人権教育指導資料「人権教育の改善・充実のためのQ&A(第二集)」 栃木県教育委員会事務局学校教育課 平成21年3月

「本県教職員の不祥事撲滅をめざして(改訂版)」 栃木県教育委員会 平成24年3月